

神のいのちの神秘

『関係性』を生きる

主任司祭 昌川信雄

聖霊が先導し、マリアさまを母として誕生した教会が最初に祝う主日が『三位一体』であるのは、すべて存在の始め、すなわち天地創造の始めから教会の始めに至るまで、父と子と聖霊の働きがあったということを私たちにわきまえさせます。

ミサの始め、食事の始め、祈りの始め、またかつて洗礼を受けるときにした「十字のしるし」は、父と子と聖霊の神の恵みの中で神と共に事を始める信仰宣言なのです。

かつて子供の頃私は、母が、炊けたごはんの釜の蓋をとって、最初に杓子で大きな十字のしるしをしてから、おひつにご飯を移すのを眺めるのが好きでした。茶碗によそったご飯を受け取るとき、父と子と聖霊の神さまの祝福を受けたご飯を戴くのだと、子どもながらに感じたものです。それは母の無言のカテキズムでした。今も炊飯器のフタを取ったとき、それを自然にやっている私です。

私たちが信じているこの、父と子と聖霊が「唯一」の神であることを教えてくれたのは聖霊でしたが、「神は唯一。他に神はない」と戒める「律法」を絶対視したがゆえに、人の子イエスを受け入れられなかった人々は、聖霊とは無縁の人たちだったのでしょうか？ 律法は善悪を教えるが、それを行う心は与えない。しかるに聖霊は知識に頼る人にではなく、心に愛を持っている人々にご自身を現わされ、父のもとに一つに集められるお方と云われます。

神は、父と子と聖霊相互の愛が一つになって完全な「関係性」を築いておられ、そのご自分に似せて私たちを創造されたのは、私たち人類にも、家庭から始めてこの「関係性」を生きるようにとの計らいに他ならないでしょう。

全世界、全人類が三位一体のみ心を実現させる日が、コロナ災害の終焉とともに一日も早く来ますよう祈りましょう。

2020年6月7日



主任司祭 昌川信雄神父